

介護老人保健施設 しおん

症 例 概 要 ご利用者名：S様 70代女性 要介護 2

疾患：糖尿病 アルツハイマー型認知症 高血圧

平成27年6月当施設入所。入所時は認知症の見当識障害・記憶障害が強く見られたが、職員との関わりの中で、認知症状が改善され、昔の記憶が戻り、ご家族と文通を始める事が出来た事例。

内 容

「以前は日本舞踊を踊っていて、色々なところで披露していたのです。とても社交的で明るい性格でした。」
「ただ今は何もせず寝ていることが多くなり、話もうまく出来ない、字も書けない状態になってしまった」。入所時は認知症が進行し、毎朝のインスリン注射で、とても辛そうな表情でした。まずは起床時間を増やし、関わりを増やす事で徐々に笑顔が見られる様になり、会話がどんどん生まれ、ユニット内を歩いて行き来するうちに、仲の良いご利用者との散歩が日課になりました。

入所して1年経過し、散歩されているS様をご家族が見て「とても元気になりました、表情も良いし安心しました。なかなか会いに来れないから。」とお話しされました。活動量も増え、血糖の数値も安定、インスリン注射も無くなり服薬のみになり、レクリエーションでは職員と一緒に踊ったり、認知症状も改善が見られました。

入所から2年が経ち、活発に他の利用者とお過ごされていく中で、会話の中に過去の記憶が出てくるようになり「親戚が近所に住んでいるから、そろそろ逢いに行きたいな」「娘が栃木だからなかなか来れないんだ」とお話しする様になりました。

また職員の名前を覚えようとメモを取るようになり、小さなメモ帳にはびっしりと職員の名前やご利用者の名前が直筆で書かれていました。これはご自分で書かれたんですか?と聞くと「良くしてもらってるから、覚えようと思って。」とおっしゃり、「そうだ、前に良くしてもらった〇〇さんに会いに行きたい」と前ユニット職員の名前まで憶えていらっしゃいました。

ある日職員とご家族の話をしていると「孫が昔身体弱くていつも病院に行っていた。今は元気かな」とお話しされたので、手紙でも書いてみますか?と勧めると「やってみようか?」と、便箋いっぱい娘様・お孫様への思いが書かれていました。

事前に娘様に手紙を送って良いか確認すると「えっ母が書いたのですか?もちろん送ってください。しおんに入る前は自分の名前も書けなかったのにすごいですね、楽しみに待っています。」と驚かされていた。手紙を送ってから数週間後、ご家族がお越しになり、「こないだの手紙は全部母が書いたのか、最初は疑ったんですが、呼んでいくうちに昔私が就職してすぐ一人暮らしをしていた時に母から良く手紙が来たんです。その頃と同じで母が書いた手紙とわかりました。」と感激されていました。「ここまで回復でいるなんて思っていなかったです、現在の母の思いもわかって本当に良かったです。もし可能であれば手紙を書いても良いですか?」と言われ、とても感動されていました。今後娘様と文通をする予定です。今回S様との関わりのなかで「認知症になっても必ず出来る」と思う気持ちと、ご利用者1人1人にあった環境を作る事の大切さを痛感しました。